

中越よつば森林組合

【長岡市】



nagaoka

作業道・高性能機械・人材育成の 3本柱で提案型林業を実施



① 伐倒はバックホウとセットで木を倒す方法とチェーンソーで伐る二手に分かれて行われた ② こちらはチェーンソーでの伐倒。受け口を作るため斜めに伐り込みを入れている ③ 左からフォレストワーカーの高橋貴重さん、奈良場達弥さん、現場管理の佐藤正佳さん、フォレストワーカーの久住知也さん

雪は積もっているが青空が気持ち良い、長岡市(旧和島村)根小屋の利用間伐現場。作業道を作るための伐倒が行われていた。右はフォレストワーカーの高橋さん



④ 組合敷地内にある小径木加工施設。平成10年に立ち上げた ⑤ 県内でも数社しかない木材防腐ラインを完備。防腐処理の依頼も多い ⑥ 右は円柱棒の片側を先研ぎしているところ。工事現場用の土木資材や公園の柵の支柱となる杭に使用される



平成21年に長岡地域森林組合、小国町森林組合、刈谷田森林組合、三島郡森林組合が合併。中越よつば森林組合は県内で最も組合員の多い、広域の森林組合だ。合併をきっかけに事業を見直し、現在は森林所有者へ地域の実情に合った利用間伐の取り組みを進め、一定面積を集約し、団地化することによって低コストな間伐施設を実施する「提案型林業」を推進している。事業量を確保するためには高性能林業機械や運搬トラックが入る作業道が不可欠と県内でも、いち早く作業道の整備に取り組んできた。さらに高性能林業機械の活用や良いオペレーターを育成することで生産性の向上とコストダウンを図っている。

間伐材を生かし、付加価値をつけるために小径木加工所や防腐加工所、木屑焚きボイラーによる乾燥施設などの専門施設も立ち上げた。間伐材ベレットやチップの価格は残念ながら高くはないが、それまで山に捨てていた残材を循環利用できる上、山をきれいにできるので理想的だ。今後は間伐材を使ったオリジナル製品も検討している。

緑の担い手

大自然の中で、プロ意識を持って働く人たちが



久住 知也 さん

年齢:41歳 林業経験:15年

Kusumi Tomoya

チームワークを大切に

15年経つてようやくこの仕事に慣れてきた感じですが、いろいろな人と組んで仕事をすることが多いのでコミュニケーションが重要になります。日々、危険を伴う緊張感のある現場なので、個々を信頼しないとやっていけない。現場の人数も少ないので自然と仲間意識も強まります。一番大事なのは仲間。みんなが気持ち良く仕事をできる環境を作っていきます。



奈良場 達弥 さん

年齢:28歳 林業経験:10年

Naraba Tatsuya

後世にも生かせる作業道を

山好きの祖父と一緒に小さい頃から山登りをしていて、中学生のときには長ノコを持って枝打ち作業もやっています。今は作業道作りに興味があります。最初に山の中を全部歩いて回り、土量や傾斜角度なども考えて作ります。良い作業道を作れば、搬出作業が終わった後の作業でもずっと活用することができます。責任のある仕事ですが、やりがいも確実にあります。



①プロセッサで枝払い・玉切りした材を道の路肩に集積している ②バックホウで伐採後に土の中に残った根を抜いて、地面をならす ③良い丸太にするために伐倒した材の伐り口を平らに成形する ④きれいに整えられた作業道。完成すると750メートルもの距離になる ⑤休憩中は和やかな雰囲気。左から久住さんと高橋さん

【事業体Data】



中越よつば森林組合

住所/長岡市雲出町字前田4421 電話/0258-21-4525
 設立/平成21年 資本金/1億7,997万円
 従業員数/55人(森林部門32人)
 勤務時間/8:00~17:00 主な勤務地/長岡市、見附市、出雲崎町
 主な従事業務内容/森林整備、木材加工販売ほか

【事業主コメント】

本所、小国事業所、刈谷田事業所、三島事業所をあわせると社員は55名。一昨年あたりから売り上げが上昇し、やっと軌道に乗ってきたと安堵しています。やはり山と木が好きじゃないと林業の仕事は務まらない。私自身ずっと山の手入れを行ってきました。木は生きものだから愛情をもって関わっていくこと。それが私のモットーです。



中越よつば森林組合
代表理事組合長 小熊 順一